

子ども読書支援センターニュース No.170

2018. 7. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年8月7日（火）11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《7月のおはなし会で使った本》

『なんかなんかあるよ』（紙芝居）小野寺悦子/脚本 童心社 2007

『ちびすけどっこい』こばやしえみこ/案 ましませつこ/絵 こぐま社 2006

『だるまちゃんとかみなりちゃん』（大型絵本）加古里子/さく・え 福音館書店房 2016

『きょうりゅうきょうりゅう』バイロン・バートン/さく・え 徳間書店 2007

★「4枚からの紙芝居づくり教室」

○日時：平成30年8月21日（火）13:00～15:30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：光紙芝居のみなさん ○対象：県内の小学生（3年生までは保護者同伴）

○定員：20名（要申込み・先着順）

○持参物：筆記用具（鉛筆、細字の黒マジック等）、絵を描くもの（クレヨン、色マジック等）※絵の具は使用不可

○申込方法：電話、FAX、Eメールで申込み

★学校図書館セミナー

○日時：平成30年8月24日（金）〈午前の部〉9:30～12:00 〈午後の部〉13:30～16:00

※午前・午後で同じ内容を実施 ○場所：山口県教育会館 第一研修室（5F）

○講師：徳田悦子氏（東京学芸大学非常勤講師） ○内容：「テーマ決めできる、主体的な探究学習」

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、市町教育委員会指導主事、学校図書館ボランティア、公共図書館職員等 ○持参物：黒サインペン（細字） ○定員：各70名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成30年8月10日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『りんごりんごりんごりんごりんご』安西水丸/著 主婦の友社 2018.6 ¥850

りんごの木からころんと落ちた、真っ赤なりんご。緑の大地を転がって、カエルにぶつかり、ぶらんこにゆられては落っこちて、地面の穴に落ちたら、もぐらに出会って…。赤と緑と白のはっきりした色使いで、シンプルな絵のりんごが引き立つ。「りんごりんごりんご」の繰り返しのリズムが軽快な赤ちゃん絵本。『がたんごとんがたんごとん』の作者による新作。

<絵本-3, 4歳から>

『こわめっこしましょ』tuperatupera/作 絵本館 2018.5 ¥1400

ねえねえ「こわめっこ」しようよ！「こらめっこ」じゃなくて「こわめっこ」。泣いたら負けだよ。せーの…。にこにこした顔のひとり目小僧や魔女、ゾンビたちが、ページをめくるとものすごく怖い顔になって登場！豹変した恐ろしい姿に、思わず泣いてしまえそう…。泣かないで、妖怪たちに勝つことができるかな？一緒にこわめっこをしているような気分になる、楽しい絵本。

『ぼく、おたまじゃくし?』田島征三/作・絵 佼成出版社 2018.6 ¥1300

小さな池の中のたくさんのおたまじゃくしは、みんなカエルになった。でも、ぼくだけは手も足も生えずに、なぜかひげが伸びてきた。ヤゴやミズカマキリたちが、ぼくのひげをひっぱるので、嫌がったぼくは夢中でひげをたぐりよせた。すると、水生昆虫たちは口の中に入ってきて…。きょうだいのカエルたちと違うことに悩みながらも、力強く成長する「ぼく」の物語。

<絵本-5, 6歳から>

『あかんぼっかん』ザ・キャビンカンパニー/作 偕成社 2018.5 ¥1500

小さな島の火山から「ぼっかん！」と生まれた、大きな赤ちゃん。煙をはきあげ、岩を投げつけ、くさいおならも、ぶっべっべつ。でも、火山の赤ちゃんは、川や温泉、湧き水やきれいな景色など、たくさんのお楽しみも生みみだした。赤ちゃんはやがて山となり、島に緑を茂らせる。熊本大地震のさなかに出産した夫婦作家による、赤ちゃんを火山に見立てた自然讃歌の絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『おしっこちよっぴりもれたろう』ヨシタケシンスケ/作・絵 PHP研究所 2018.6 ¥1000

ぼくは、パンツにおしっこがちよっぴりもれちゃうから、いつもお母さんに怒られる。ぼくみたいに困っている人、ほかにもいるんじゃないのかな。道行く人は、もしかしてみんな「もれたろう」じゃないのかな。みんなその人にしかわからない、困ったことがあるのかな…。子どもの悩みに寄り添った、ユーモア絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『クマと少年』 あべ弘士/作 ブロンズ新社 2018.5 ¥1500

兄弟のように育てられた、アイヌの少年と子グマのキムルン。ある冬の夜、クマを神の国へ帰すイオマンテ(クマおくり)の儀式を前に、キムルンは姿を消す。8年後、少年はキムルンを追う旅に出る…。アイヌの暮らしや大自然に生きる動物たちを、ダイナミックな筆遣いで描いた絵本。旭川で生まれ育ち、動物園の飼育係の経験もある作者が描く、命についての物語。

<読み物一小学校低学年から>

『ふたごのカウボーイ』 フローレンス・スロポドキン/文 ルイス・スロポドキン/絵 小宮由/訳 瑞雲舎 2018.6 ¥1300

双子の男の子ネッドとドニーは、庭でカウボーイごっこをするのが大好き。ある日、カウボーイになりきった二人は、おたずねものや動物を見つけに庭から通りへ出て、たどり着いた街で迷子になってしまう。心配した街の人は、名前を尋ねるが、その度に二人は「スティーブとジム」と答えてしまうから大混乱…。小さな子どもたちのごっこの世界を楽しめる作品。

<読み物一小学校中学年から>

『凸凹あいうえおの手紙』 別司芳子/著 ながおかえつこ/絵 くもん出版 2018.6 ¥1400

地域のお年寄りを学校に招待する交流会の案内を、ポストに入れた小6の大地。しかし、届けたはずの佐山さんから返事がこない。家を訪ねると、白い杖をついた佐山さんが車から降りてきた。佐山さんが目が不自由なことに気づいた大地は、佐山さんに最近亡くした祖母の姿を重ね、なんとか交流会に参加してもらおうと考える。点字や福祉の学習でも使える1冊。点字の手紙付き。

<読み物一小学校高学年から>

『ゆっくりおやすみ、樹の下で』 高橋源一郎/著 朝日新聞出版 2018.6 ¥1300

これまで一度も会ったことがなかった神奈川県鎌倉市の祖母の家で夏休みを過ごすことになった小5の少女ミレイ。バーバの住む館で、曾祖母が子どもだった時代や、戦時中にタイムスリップし、家族の歴史をたどることに。ティディベアのビーちゃんの視線で描く、ひと夏の不思議な冒険物語。『朝日小学生新聞』連載を加筆し書籍化。作者の初めての児童文学作品。

<読み物一中学生から>

『ドリーム・プロジェクト』 濱野京子/著 PHP 研究所 2018.6 ¥1400

長年住み慣れた田舎の家を出てきた祖父を気にかける中2の拓真は、日菜子からインターネットを使った「クラウドファンディング」という方法を聞く。拓真をリーダーとした5人の仲間は、2か月で100万円を集めるという古民家再生プロジェクトに挑むことに…。企業や地域の人と繋がり、試行錯誤しながら社会へ働きかけていく中学生の青春物語。「わたしたちの本棚」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『仕事に行ってきます② 動物園で、そうじの仕事 義信さんの1日』 埼玉福祉社会出版部 2018.4 ¥2200

神戸市立王子動物園で、園内掃除の仕事をする義信さん。家でも隅から隅まで掃除し、きれい好きな性格を生かせるこの仕事をハローワークで見つけた。午前5時に起きてから、午後10時に寝るまでの生活の様子を写真で紹介。知的・身体・精神など障害のある人の姿を通して、働く楽しさを伝えるLLブック。『クッキーづくりの仕事』も同時発売。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『しっぽがない! コアラとヒトのしっぽのなぞ』 犬塚剛久/文 大島裕子/絵 福音館書店 2018.6 ¥1300

「しっぽがある」ということは、骨がある動物の大きな特徴の一つ。なのに、コアラとヒトにしっぽがないのはどうして? イヌの「ぬやま先生」から出された宿題を、ヒトの「あだちさん」と、コアラの「ふくろいくん」が、しっぽを持つ動物の生活の仕方や、様々なしっぽの働きを調べながら、その謎を解き明かす。「たくさんのふしぎ傑作集」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『母が作ってくれたすごろく ジャワ島日本軍抑留所での子ども時代』 アネルト・ウェルトハイム/文 長山さき/訳 徳間書店 2018.6 ¥1600

8歳からの2年あまりを、日本軍のインドネシアの抑留所で過ごしたオランダ人女性である筆者。当時使っていた品々や絵、抑留所内で母親が手作りしてくれた「すごろく」に思いを寄せて、子どもの目から見た、戦争と辛く悲しい抑留生活を回想するノンフィクション。原作に出会って20年、日本語訳本の出版を、自分の使命だと思い続けてきた訳者の熱い思いを、あとがきで伝える。

『フェルムはまほうつかい』 スギヤマカナヨ/文・絵 畠山重篤/原作 小学館 2018.6 ¥1500

陸にも海にも空気の中にもある「鉄」。地球の重さの3分の1は「鉄」。植物の光合成、人間や動物の呼吸、海の中での生命の誕生、森で変身して海の森をつくるのに深く関わっている「鉄」。命にとってなくてはならない「鉄」のはたらきをやさしく描く科学絵本。題名の「フェルム」は、ラテン語の「鉄」という意味。『鉄は魔法つかい』(小学館2011年刊)の絵本化。

<ノンフィクション一中学生から>

『おばあちゃんが、ほけた。増補新版』 村瀬孝生/著 新曜社 2018.5 ¥1300

毎日、山口県豊浦郡カミタマ村に出るキツネの話をするツイさん、夕方になると「家」を目指してたくたになるまで歩き続けるトメさん。スピードと効率を重視する介護から、お年寄りの混乱に付き合う努力に切り替えた著者の体験談を漫画を交えてユーモラスに語る。ボケの可笑しさを通して生きることを考える。初版:理論社2007年刊。「よりみちパン!セ」シリーズ。

<研究書>

『小学生のうちに読みたい物語 学校司書が選んだブックガイド』 対馬初音/編著 少年写真新聞社 2018.5 ¥2000

杉並区の小学校で働く学校司書が、自信を持って小学生に手渡したい、物語(フィクション)の本を紹介したブックガイド。読み物への移行期から、読み応えのある本まで難易度順に、1ページに1冊ずつ紹介。カラーの書影、書誌事項とキーワード、対象学年を示す。読み継がれてきた作品を中心に、昔話や今は絶版になっている本も一覧で紹介。コラム、書名索引、キーワード索引あり。

『保育と絵本 新版 発達の道すじにそった絵本の選び方』 瀧薫/著 エイデル研究所 2018.6 ¥1800

保育園の園長が、0歳児から6歳児まで年齢別に、ふさわしい絵本とその絵本の持つ魅力をフルカラーで紹介。なぜ、その絵本がその年齢の子供に適しているのかを、子供の発達に即して具体的に説明する。絵本の選び方や絵本で育まれるもの、保育における絵本の役割など、基本的なことが理解できる。発達の道すじと絵本の例をまとめた表あり。平成30年施行の新しい要領・指針に対応。